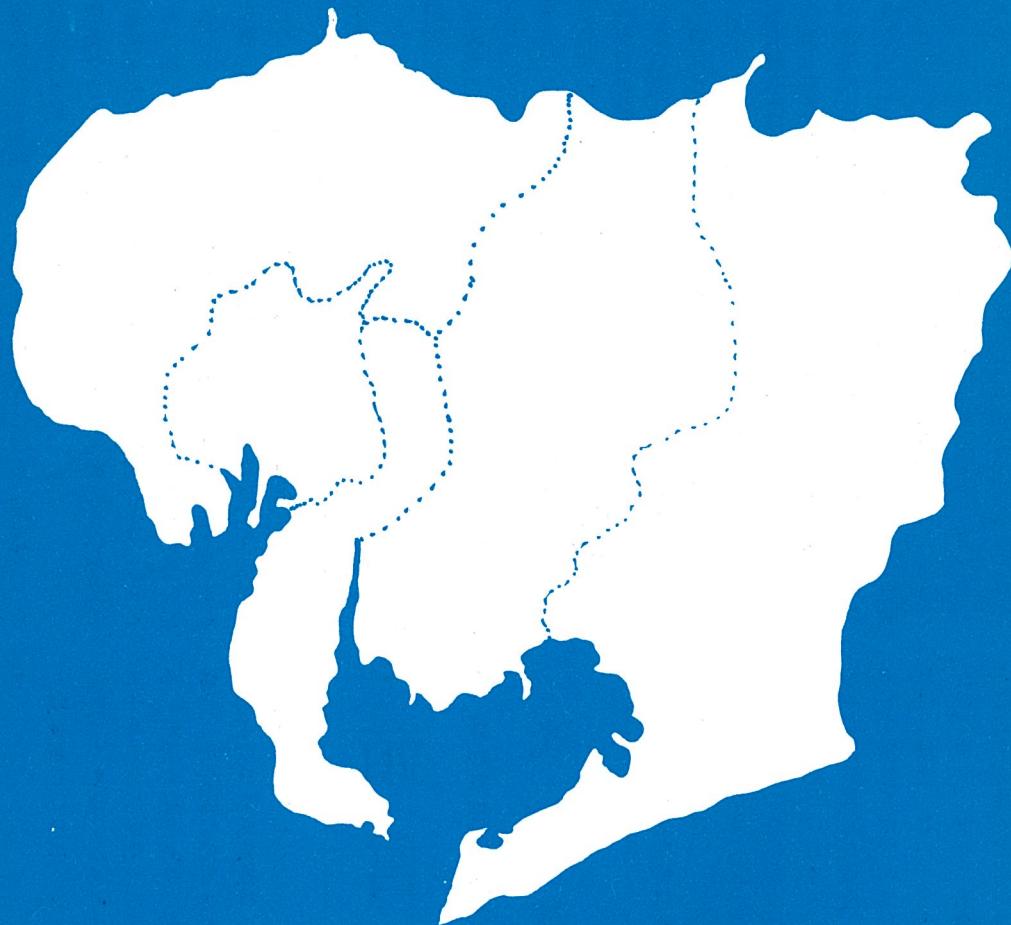


観の眼



—— 目 次 ——

巻頭言	1
49国体を目指して	2
文献紹介	2
48国体だより	3
全国警察剣道大会	4
地区だより尾張剣道連盟	5
道場紹介、洗心道場	7
二刀流復活	8

全日本女子学生剣道優勝大会	
中京大学準優勝	9
会員の声	10
稽古会紹介	12
大会記録	13
連盟所在地一覧	17
称号段位合格者	18
編集後記	18

第18号



財団
法人

愛知県剣道連盟

天下分目の関ヶ原合戦は、本能寺東西分立の戦いでもあった。織田信長の仏法絶滅の政策に対し、本願寺第十一世顕如上人はその子教如と共に決然と起ち、反信長勢力と手を結び、「穢土淨土」「南無阿弥陀仏」の旗を振り翳した一向一揆に助けられ、法敵打倒を叫び大坂石山城を根拠に十年間に亘り強靄に戦つたが、結果は本能寺側の負けとなり紀州鷺の森の別院に移る。しかし信長をもつてしてもこれを根絶することは出来なかつた。

信長は本能寺に倒れ、豊臣秀吉が

天下を取るや京都七条堀川に寺基を

定め顕如上人を迎える。

顕如薨去の後、秀吉は直ちに教如上人に法嗣を継がせたが一年もたたない中に、秀吉は如春尼の願いを入れて弟准如に法主の座を譲らせ、教如は北舎に移り悶々の日々を送る。関ヶ原合戦が始まるや、教如は親鸞の旧跡巡拜に名を借りて関東に下向、小山の陣営に徳川家康を見舞い、戦勝後は家康が後陽成天皇の勅裁をえて、京都七条鳥丸に土地を寄進し東本願寺の建立となり、その開基となつた。

この戦国の真只中につけて結果に

49国体の勝利と成功を目指して

福田俊雄

今年はいよいよ第四十九回国民体育大会「わかしゃち国体」開催の年です。秋季大会は、平成六年十月二十九日から六日間の日程で開催され、剣道競技は十月三十一日から四日間で、全国から予選を勝ち進んだ精銳が西尾市に集まり、すばらしい熱戦が展開されます。国体は、半世紀に一度巡ってくる全国規模の一大スポーツの祭典です。この大会を期に、全国からの参加者を温かく迎え、友情を深めると共に、愛知は良かつたといわれる大会にしたいものです。

第四十九回国民体育大会秋季大会「わかしゃち国体」の競技日程は次のとおりです。

十月二十九日(土)総合開会式

名古屋市瑞穂公園陸上競技場

(財)愛知県剣道連盟では、わかし

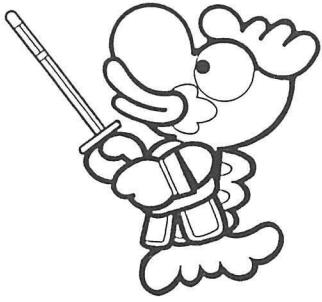
やち国体に向け、選手の強化を図つ
西尾市総合体育館

十一月三日(木)総合閉会式

名古屋市瑞穂公園陸上競技場

(財)愛知県剣道連盟では、わかし

やち国体に向け、選手の強化を図つ



種別および参加人員

種別	監督	選手	参加都道府県	小計	合計
少年男子	1	5	24	144	
少年女子	1	5	24	144	
成年男子2部		3	16	48	
成年男子1部		5	47	235	571

期日	剣道競技				西尾市総合体育館
種別	10月30日(日)	10月31日(月)	11月1日(火)	11月2日(水)	
式典等	開始式 公開演武 (日本剣道形・杖道)	集団演技 表彰式 (少年男子および少年女子)	表彰式 (成年男子2部)	表彰式 (成年男子1部 および総合) 閉会式	
少年男子 少年女子	1・2回戦	3回戦・準決勝 3位決定戦・ 決勝戦			
成年男子2部		1・2回戦	準決勝・3位 決定戦 決勝戦		
成年男子1部			1・2回戦	3回戦・4回戦 準決勝・3位 決定戦 優勝戦	

文献紹介

高野佐三郎著「剣道教本」上

下二九五頁

発行 島津書房

定価 三九〇〇円

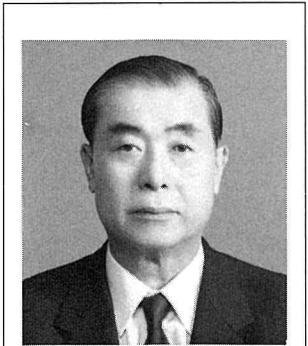
昭和五年に上下二巻で発行された高野範士の名著の復刻版。

上では剣道の技術を中心述べられており、剣道の目的から始まり、守破離の修業の道すじを基礎に練習の方法が説かれている。下では理論編ともいべき内容で、道としての剣道を追究するためにはさまざまな角度から述べられている。

現代の剣道を考えるうえのよき指針となる。

主な内容(目次より)

上、「剣道の目的」「基本練習」「対敵練習」「練習の心得」「技術の基礎」「仕合の心得」「諸種の運動競技と剣道」「技術の活用」「剣道の体育的価値」「剣道身剣道心」下、「下級者指導の心得」「帝国剣道形」「真剣勝負及び他の他の心得」「剣道精神上・下」「剣道の歴史」「日本刀」「剣道と悟道」



卷頭言

財団法人 愛知県剣道連盟副会長

光松靖起

成り、昭和二十七年には全日本剣道連盟が結成され今日に至つております。

戦後新しいスポーツとして生まれ変わった剣道ではありますが、昭和五十年五月に全剣連の指導方針として「剣道の理念並びに剣道修練の心構え」が全国に発布されました。日本剣道は日本民族独特の体験の中から生まれたもので、これは日本民族

毅然として本願寺を死守し抜いた顕如、教如、そしてその門徒の信心の中で生まれた格闘技術の一つである日本剣道。申しまでもなく剣道の歴史も幾多の起伏を乗り越えてきました。明治時代の始めには、文明開化の影響や武士階級の廃止に伴い廃刀

とところで、日本民族の長い歴史の中で生まれた格闘技術の一つである日本剣道。申しまでもなく剣道の歴史も幾多の起伏を乗り越えてきました。明治時代の始めには、文明開化の影響や武士階級の廃止に伴い廃刀

変わった剣道ではありますが、昭和五十年五月に全剣連の指導方針として「剣道の理念並びに剣道修練の心構え」が全国に発布されました。日本剣道は日本民族独特の体験の中から生まれたもので、これは日本民族

にはより多く感動する機会に恵まれることを望みたい。

私は本願寺と剣道双方の変遷を経た。しかし西南戦争で再び見直され、令が施され、剣道は一時衰退しました。しかし西南戦争で再び見直されました。ところが昭和二十年の終戦と共に連合軍司令部の手により全面発足し、更に学校教育にも公認採用になりました。ところが昭和二十年の終戦と共に禁止されました。しかし乍ら日本古来の伝統文化でもあり日本人の魂でもある日本剣道は、真にそれを愛する諸先輩の情熱により復活と相

成の道と信ずるものであります。従いまして、剣道に縁ある私としては、剣道を通じて永遠のテーマでありますその道を極めるべく今後も精進して参る所存でありますと共に指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。当連盟がさらに充実し、諸先生方と会員の皆様方のご健康、ご活躍をお祈念申し上げ、挨拶とさせて頂きま

る。う時(同列にみるのは不適切かも知れませんが)、私自身不勉強で観念的な表現しか出来ませんが、思つたま、一言で申しますと、剣道をはじめ凡ら生まれたもので、これは日本民族の修業の道であり、即ち人間形成の道と信ずるものであります。

私は「信念」という言葉を大切にして情熱ではないでしょうか。私は「信念」という言葉を大切にしたいですが、併せて感受性を鋭くするこことも必要だと思います。何故ならば感動することが人の心を豊かにすることも必要だと思います。

果たして永年に亘つて伝統文化を守り続けてきた原動力は何かと思う時、その第一に日本人の心でありその中身は共通した理念、信念、感動、

そして情熱ではないでしょうか。私は「信念」という言葉を大切にしたいですが、併せて感受性を鋭くすることも必要だと思います。何故ならば感動することが人の心を豊かにすることも必要だと思います。

第48回国民体育大会

深川辰磨

49 あいち国体を一年後に控え、第

48回国民体育大会秋季大会が、本四架橋後の二十一世紀に向けて大きく発展しようとしている。香川、徳島二県初めての共同開催による「東四国国体」をテーマとした「出会い、競い、そして未来へ」のスローガンのもと平成五年十月二十四から六日間、両県各地の競技場において三十競技が盛大に開催された。

剣道競技は十月二十五日、二十六日の二日間、徳島県小松島市立体育馆において少年男子、少年女子の部を、十月二十七日、二十八日の二日間、場所が変って徳島市県立城北高校体育馆において成年一部、成年二部が華々しく開催された。

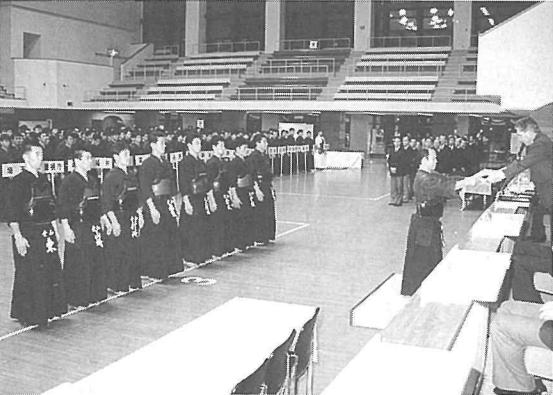
愛知県選手団は、中村薰範士を総監督として成年一部および東海ブロック、ミニ団体を勝ち進んだ成年二部、少年男子、少年女子の四種別に出場する十八名の選手が入賞を目指して参加した、私は命を受け強化委員として同行することになった。

いた鈴木つばせり合いから一瞬氣を放つたところ退き面をとられ涙をのんだ。

五、おわりに

以上試合結果は成年二部の五位入賞のみに終わった、それぞれ実力伯仲、気迫に満ちた試合を展開し全力を出しつくしての健斗であったが、いま一步のところが崩せず惜敗した。

全国警察剣道大会応援の一部へ復帰 柳生泰邦



平成四年十一月二十日警視庁術科センターにおいて、全国警察剣道大会が開催され、都道府県警察及び皇宮警察の四十八チームが出場し、一部には埼玉、警視庁、神奈川、大阪、京都、兵庫、広島、香川の八都府県警チームが、二部には一部以外の四十道県警チームが熱戦を展開しました。

試合は、一チーム九人登録の七人によって行われます。一部はA、B二組に分かれてリーグ戦を行い、各リーグの首位チームによって優勝を争い、リーグ最下位チームが二部に降格します。そして二部において優

一本の重みをひしひしと感じさせられる試合ばかりであったと思います。選手の皆さん、健斗、苦労さんでした。本大会の経験を教訓に生かし、来るべきあいち団体に備え、更に精神面、技術面、体力を強化鍛練し大目的達成へ向つて努力しなければならないと痛感しております。

平成四年十一月二十日警視庁術科センターにおいて、全国警察剣道大会が開催され、都道府県警察及び皇宮警察の四十八チームが出場し、一部には埼玉、警視庁、神奈川、大阪、京都、兵庫、広島、香川の八都府県警チームが、二部には一部以外の四十道県警チームが熱戦を展開しました。

試合は、一チーム九人登録の七人によって行われます。一部はA、B二組に分かれてリーグ戦を行い、各リーグの首位チームによって優勝を争い、リーグ最下位チームが二部に降格します。そして二部において優

一、成年一部

一回戦茨城と対戦、先鋒馬場一回戦という固さもなく軽快な動きで延長直後にあざやかな小手を決め勝利へと流れをつくった。次鋒勝野自分が華々しく開催された。

剣道競技は十月二十五日、二十六日の二日間、徳島県小松島市立体育馆において少年男子、少年女子の部を、十月二十七日、二十八日の二日間、場所が変って徳島市県立城北高校体育馆において成年一部、成年二部が華々しく開催された。

愛知県選手団は、中村薰範士を総監督として成年一部および東海ブロック、ミニ団体を勝ち進んだ成年二部、少年男子、少年女子の四種別に出場する十八名の選手が入賞を目指して参加した、私は命を受け強化委員として同行することになった。

面を先取され時間切れ惜しい一敗を喫した。次鋒勝野調子が戻ったかと見えたが小手を連取された。中堅山崎堂々たる試合運びで返し胴、面を連取副将へつないだ。大嶽氣力の攻めに出たが面を連取され勝敗が決した。大将勝股と大分青木ともに全国の実力者にふさわしい見応えのある攻防を展開、一対一のあと小手を決められ四対一で涙をのんだ。

二、成年二部

一回戦熊本と対戦、先鋒関屋実力伯仲した見応えのある攻防の中一瞬の隙をとらえ小手に決め一本勝ちとした。中堅平井気迫の攻めで退き面豪打で面を連取し勝利を決定した。大将勝股面を先取し一本勝ち、四対一で快勝し好スタートをきつた。

二回戦秋田と対戦、先鋒馬場一回戦の不調を吹き飛ばし本来の得意わざで面を連取した。中堅山崎一対一のあと息づまる攻防を展開し健斗したが胴をとられた。副将大嶽小手、面と連取され大将戦ともつれこんだ。チームの絶対の信頼を受けて大将勝股一対一の延長後、気迫に満ちた攻撃から見事に退き面を決め勝利を決した。

三回戦は昨年三位の強豪大分と対戦、先鋒馬場一、二回戦を連勝し好調な動きで果敢に攻めたたたが決まりらず、つばせり合いから一瞬の退き

二対一で二回戦へ進出、二回戦千葉と対戦先鋒関屋積極果敢に攻めたが決まらず延長となり小手をとられ、惜しい一敗を喫した。中堅平井上段に對してよく攻めるが小手を先取された。すかさず反撃に出て得意の片手突きを決め延長戦になつたが上段から的小手を決められ勝敗が決した。大将水野気落ちすることなく激しく攻めて小手を先取したが退き面を許して引分けとなり、この時点で第五位が決定した。

二回戦滋賀と対戦、先鋒柴田面を先取し一本勝ちとし次鋒面をとられ一本負け、中堅岩井面を連取され二本をとられた大将清水試合先鋒から副将までよく健斗したが何の意地をみせ面を連取し一点をむけ合つたが面を連取された。

二回戦は強豪九州勢の佐賀と対戦、先鋒から副将までよく健斗したが何の意地をみせ面を連取し一点をむけ合つたが面を連取された。

三、少年男子

一回戦奈良と対戦、先鋒杉浦軽快な動きから小手、面を連取し好調なスタートを切った。次鋒斎藤面小手と連取され対となる。中堅真田積極的な攻めに出るが面を先取され時間切れとなつた。副将川澄よく踏ぱり、

大将清水期待に応え一対一の延長後

気迫の面を決め二回戦へ。

二回戦は強豪九州勢の佐賀と対戦、先鋒から副将までよく健斗したが何の意地をみせ面を連取し一点をむけ合つたが面を連取された。

大将清水期待に応え一対一の延長後

気迫の面を決め二回戦へ。

二回戦は強豪九州勢の佐賀と対戦、先鋒から副将までよく健斗したが何の意地をみせ面を連取し一点をむけ合つたが面を連取された。

大将清水期待に応え一対一の延長後

四、少年女子

一回戦滋賀と対戦、先鋒柴田面を先取し一本勝ちとし次鋒面をとられ一本負け、中堅岩井面を連取され二本をとられた大将清水試合先鋒から副将までよく健斗したが何の意地をみせ面を連取し一点をむけ合つたが面を連取された。

二回戦奈良と対戦、先鋒杉浦軽快な動きから小手、面を連取し好調なスタートを切った。次鋒斎藤面小手と連取され対となる。中堅真田積極的な攻めに出るが面を先取され時間切れとなつた。副将川澄よく踏ぱり、

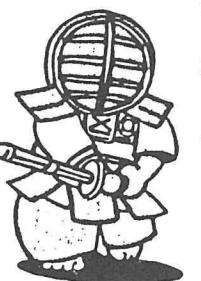
の剣道部への入部希望者急増期であったため、参加校は一時的に減少したもの、その後は増加の一途をたどってきた。

しかし、わがチームには是非とも優勝して一部復帰したいとの気持ちが湧き上がつてくるのを禁じ得ません。監督以下が円陣を組み「これで良とせず、優勝して一部に上がる」と心を一つにして誓い合ったのです。決勝戦の相手は、以前、一部リー グにおいて何度も対戦し、お互いが

できるような気もしますが、不安感で一杯です。そこで大嶽監督、東助監督は、選手を集め「一部降格の悔しさと一年間の苦しい練習の成果をこの一戦に賭よう。自分の持つている気力と技術を五分間の試合で使い切って来い」と厳しい指示を与えます。今年最大の目標としてきた一部復帰を果たすべく指導陣と選手団の気持ちが一つになり対戦する相手は、群馬、奈良、秋田、栃木のチームを倒して勝ち進んできた大分県警です。先鋒は、今まで全勝を維持してきたが流石に堅くなつたのか、出鼻の面を先取されてしまいました、以後よく相手を攻めたのですが取り返すことができず、一本負けを喫してしまいました。しかし、次鋒から大将までは、よく攻めて六対一で勝利を収めたのです。そして決勝戦に進むことができ、一部入りを確実にしました

知り尽くしている熊本県警です。ここまで石川、岡山、徳島、鹿児島というチームを破ってきており、これまた強敵です。わがチームの選手起用は、緒戦からの不動のメンバーです。期待していた先鋒が、小手を攻めようとしたところを面に乘られ了一本負け。続く次鋒は一対一の接戦から辛くも小手を決めて互角に持ち込みました。しかし、相手も決勝まで勝ち進んできた強者揃いです。これまで好調に試合を進めてきた五将から大将までの各選手たちもよく戦つてくれましたが、勝負は我に利あらず一対六という結果で残念ながら優勝を逃してしまいました。

それぞれのチームが優秀な剣士を擁し、実力的にも大きな差のない中において、わが愛知県警チームは念願の一部復帰を果たし得たことをご報告いたします。



知り尽くしている熊本県警です。ここまで石川、岡山、徳島、鹿児島と
いうチームを破つてきており、これまた強敵です。わがチームの選手起用は、緒戦からの不動のメンバーです。期待していた先鋒が、小手を攻めようとしたところを面に乘られて一本負け。続く次鋒は一対一の接戦から辛くも小手を決めて五角に持ち込みました。しかし、相手も決勝まで勝ち進んできた強者揃いです。これまで好調に試合を進めてきた五将から大将までの各選手たちもよく戦ってくれましたが、勝負は我に利あらず一対六という結果で残念ながら優勝を逃してしまいました。

それぞれのチームが優秀な剣士を擁し、実力的にも大きな差のない中において、わが愛知県警チームは念願の一部復帰を果たし得たことをご報告いたします。

地区だより

尾張地区剣道連盟

地区だより

尾張地区剣道連盟

第30回 尾張地区中学校 剣道記念大会を終えて

尾張地区剣道連盟

熊木康治

本年六月五日 江南市民体育馆・
武道館において、男子七十四校、女子
六十六校の参加をもって、第三十
回尾張地区中学校剣道記念大会を盛
況に終えることができた。

ふり返つてみると、大会発足当時
は中学生の对外試合禁止の時代であ
つたが、何とか中学生に剣道を学ん
でもらいたいとの願いから、先輩の
先生方がご尽力され、尾張・愛日・
知多の各教育事務所へ開催主旨・主
催・運営方法等の書類を提出し認可
申請を受けることができた。

こうして第一回全尾張地区中学校
剣道大会という記念すべき大会の開
催にこぎつけることができたわけで
ある。このように苦労して大会を開
かなければならぬ時代が数年続い
たが、やがて、对外試合の禁止が緩

和され、開催地の教育委員会主催、
後には後援が得られればよいということ
ことになり、今日に至っている。
この大会における参加校数から尾
張地区の剣道発展の状況を窺い知る
ことができるのではないかと思われる。
発足当時は、男子チームのみで三
十数校の参加であつたが、回を重ね
ることに増加していった。さらに、
女子も剣道部へ入部したいと希望す
るようになり、次第に増加し、女子
の大会も併せて実施して欲しいとの
要望が出された。そのため各地区の
実情を調査し、ただちに五人制のチ
ーム作りは無理だが三人制にすれば
大会を開く程度の学校が参加できる
ことが分かった。
そこで、第十回の区切りのよい大
会を機に、先鋒・中堅・大将の位置
で三人制の大会を実施することにし
た。その後、女子部員も少しずつ増
え、数年後には五人制の試合を望む
声が寄せられるようになってきた。
この間、大会がスムーズに発展し
ていったわけではない。昭和五十一
年第十二回大会を最後に、知多地区
が尾南地区剣道連盟発足と共に、大
会に参加できなくなり一時危惧を抱
いたこともあった。しかし、中学生

尾張地区中学校剣道大会記録				
回数	年月	会場	優勝校	
			男子	女子
1	S.39.5	一宮市産業体育館	有松	
2	40.4	"	布袋	
3	41.5	"	一宮北部	
4	42.5	"	"	
5	43.5	"	一宮中部	
6	45.6	"	日進	
7	46.5	"	一宮北部	
8	47.6	"	日進	
9	48.6	"	布袋	
10	49.6	"	滝	上野
11	50.6	"	"	"
12	51.6	"	上野	大府
13	52.6	"	宮田	一宮北部
14	53.6	"	岩倉	浅井
15	54.6	"	岩崎	滝
16	55.6	一宮高等学校	白木	浅井
17	56.6	一宮市産業体育館	滝	古知野
18	57.6	"	岩倉	天王
19	58.6	"	熊野	扶桑
20	59.7	一宮高等学校	岩倉南部	"
21	60.6	一宮市産業体育館	滝	西成
22	61.6	"	弥富	甚目寺
23	62.6	"	天神	日進
24	63.6	"	岩倉	岩倉南部
25	H.1.6	"	東郷	千代田
26	2.6	江南市民体育館	岩倉	長久手南
27	3.6	一宮市産業体育館	"	"
28	4.6	"	白木	幡山
29	5.6	扶桑町総合体育館	春日井東部	天神
30	6.6	江南市民体育館	犬山南部	師勝

第30回 尾張地区中学校
創道記念大会終了

尾張地区剣道連盟

和され、開催地の教育委員会主催、
後には後援が得られればよいという

の剣道部への入部希望者急増期であつたため、参加校は一時的に減少したものとの、その後は増加の一途をたどってきた。

また、大会の名称も、「全尾張地区中学校剣道大会」から「尾張地区中学校剣道大会」としたわけであるが、

二十三日に第十四回を迎えることになつてゐる。
さて、女子の大会についてであるが、昭和五十九年の第二十回記念大会から、五人制にしても、参加校の確保ができるようになり実施に踏み切つた。この大会が隆盛になつたことを喜ばれた諸先輩より二十回を記念して「何か記念品を」という有難い助言をいただき、故栗本信三先生

江南市教育委員会のご理解とご協力をいただき、江南市民体育館と併設の武道館の二会場で開催することができた。この大会のために、尾張地区剣道連盟・光松靖起会長の揮毫による『真剣』と染め抜いた記念手拭を参加者全員に配布した。また、第一回大会より今日まで常に、中日新聞社より暖かい後援をいただいている。

しかし、ここ数年前より、生徒数の減少が著しく、さらに他の競技に生徒が傾き剣道部への入部希望者が減少しつつあり、廃部を余儀無くされた学校もあつて関係者は頭を痛めているところである。何とかして剣道の魅力を知つてもらい部員を増やしていくこうと努力しているところである。

今でも「全尾張大会」と呼ばれる中学生の励みの一つの大変な大会となつてゐる。加えて、このような大会がもう一度あることを望む中学生の希望を受け、昭和五十六年から「尾張地区中学校新人戦剣道大会」を開催し本年九月

その後も剣道部創設校が増え、大会参加校も多い年には、男子八十余校・女子七十余校にのぼり、役員・審判・補助役員等を合わせると百三十余名となり、会場もこれだけの規模になると限られてくる。また、交通の便も考慮し、一宮市教育委員会のご援助によって一宮市産業体育館を主な会場としているものの、やはり駐車場確保も大きな課題となっている。幸にも近くに神山小学校があり、行事と重ならない限り最大の便宜を計っていたいている。大会運営に当たる者にとっては、悩みも多いが、嬉しい悲鳴をあげている大会でもある。

以上のような過程をたどり、第三回の記念大会を会場の都合により

回数	年月
1	S.39.5
2	40.4
3	41.5
4	42.5
5	43.5
6	45.6
7	46.5
8	47.6
9	48.6
10	49.6
11	50.6
12	51.6
13	52.6

14	53. 0
15	54. 0
16	55. 0
17	56. 0
18	57. 0
19	58. 0
20	59. 7
21	60. 0
22	61. 0
23	62. 0
24	63. 0
25	H. 1. 6
26	2. 0
27	3. 0
28	4. 0
29	5. 0
30	6. 0

道場紹介（第三回）

洗心道場

由来と心



名古屋市中区大津通り線を走る地下鉄名城線、東別院駅で下車、徒歩五分のところに眞宗大谷派名古屋別院がある。その別院の一角に今回紹介する洗心道場がある。先きに道場道場であるが、当洗心道場は、東京オリンピックの頃から青少年対策が各方面、各部門で呼ばれるようになったのを機に昭和四十三年十月に東別院青少年会館が設置された。

そもそもこの道場は、本山（京都東本願寺）の教務所であったが、東別院盟会長宮田一雄氏のお骨折ご配慮により、又中区剣道連盟の役員の皆様方のご指導で、この道場ができたのである。

盛大に開催し、少年達の交流を深め人間形成に役立たてている。その他、夏期、冬季選手権大会を毎年実施し、門下生一同が自分の実力を發揮する絶好のチャンスでもある。夏期選手権の後、合宿を行い、けい古は勿論、本堂で早朝からお参り座禅と精神面の修業を行い、朝食後、境内での野試合（風船割り）を行うのである。

洗心道場の二十数年の歴史の中には、各団体から「洗心恐るべし」の声を聞く程、猛練習と先生方のご指導のもと、県下はもとより他県にまで有名になつた時期もあり、今道場一杯に掲げられた優勝旗を見るとびに、又青少年会館に山のように陳列された盾、トロフィーを見るたび

に一つ一つが少年剣士が活躍した、その瞬間が脳裏を走り、しっかりと記憶されている。これら少年剣士は大きな財産であり、深い思い出一杯もついているものと思う。又個人では、数十個のメダルを獲得した者もいる。この実績を踏えて彼等は、高校、大学、社会人となりそれぞれの分野で剣道でも活躍し、社会人として洗心道場で基礎をしつかり身につけた若者が二十一世紀を荷負い、「剣佛一如」の指標を全うすべく頑張つて欲しいものである。又洗心道場をわが家、わが故郷のごとく忘れることがなく訪れる者もいる。

今では

ここ数年前から女性、高齢者及び外国人、老若男女といろいろな剣士が供に研究し、切磋琢磨しながらそのふれあいの中に生き洗心道場での思い出を終生忘れることはあるまいと確信している。

最近時代の流れとでも云うのか、サッカーブームになるとともに子供さんが極めて少なくなり剣道を習う子供が減少してきたのか現状である。

○所在地	名古屋市中区橘
二部	二十一八一四五
三部	〇道場長 青少年会館館長 竹田智
一般	〇電話 (〇五二)三三二一九五七六
午後六時三十分	〇稽古日 剣道 火、木、土曜日
午後五時二十分	初心者(一部)午後五時三十分
午後七時三十分	二部
午後八時三十分	一般
午後九時三十分	居合
午後十時三十分	秋田森治先生

○その他
健康体操、剣舞等も実施しているのでご希望の方は問合せて下さい。

○二刀流復活 木本三夫
戦前学生剣道には、各学校に二刀流の選手が一人はいた。これは、抜き試合が主だったの、ストップバーとして、又、対二刀の練習用に養成していた。戦後も少年剣士の姿は、指導部も彼等に思ひ出を沢山つくつてやりたい気持で一杯である。

この結果東海学生剣道の試合に一刃の選手が一校にみられ、今後ふえてくるきざしがみえている。

困ることは審判の判定である。今まで二刀をみたことも、勿論対戦したこともない人が審判にいる。小刀の打ちに対するの問題もある。対二刀戦法が一般化しないうちに、皆さんも二刀流をやつてみられては如何ですか？

(東海学生剣道連盟理事長)

番と故宮田一雄氏の間で、青少年の健全育成と人間形成の目的で剣道場となつたのである。従つてこの道場は、剣佛一如を基調として、親鸞聖人のお心「自ら反省し、感謝の念を忘れない」を道場訓に掲げ、技を磨くためには「まず人を作る」を目指す指導がなされたのである。分りやすくするため道場訓として「一、軽」「二、体力」「一、技」と三指標とし門下生に唱和させている。

ここで洗心道場の「洗心」についての説れを紹介すると、大無量寿經の中に、「洗除心垢」と云う言葉がある。汚いよこれた心の垢を洗い除くと云う意味から当時の輪番が「洗心」と名付けられたのである。又道場に掲げられた額の洗心の者は、大谷派前門主の蓮如上人の御選筆であることをもつけ加えておく。

洗心道場は、入門と同時に門下生には、必ず念珠が渡される。又けい院を開基された、そのご恩に報い感謝の意味で行われるのである。

同及び道場関係者が京都本願寺へ参詣が五年に一回実施され、その時には京都弘道館で親善試合を行い、技術と心を磨き交流を深めている。また御坊さくら祭が毎年四月の第一曜日に催される。境内一杯に出店が並び、その中で洗心道場御坊さくら祭少年剣道大会を開催するのである。お詣りに見える老若男女も足を止め見学される方も非常に多い。御坊さくら祭は、十六代目一如上人が東別院を開基された、そのご恩に報い感謝の意味で行われるのである。

歩み

洗心道場の初代の師範長は故安田政次郎先生で、二代目師範長は故加藤万寿一先生である。加藤万寿一生のこ逝去のあとは、不肖私が現在他の数名の師範の先生方のご協力を賜りなんとか継承している次第である。

昭和四十五年以降昭和六十年代までは、平均で二〇〇名位はおり非常に盛況であった。又洗心道場は、毎年十月に洗心大会を開催し、今年で二十五週年の大会を行うことになつていて。平素から洗心と交流の深い団体に対し、より深い交流を図るために、十週年目、二十週年目には、名古屋大谷高校で県下をはじめ他県までも案内し記念行事として



第12回全日本女子学生剣道優勝大会

中京大学剣道部

監督 堀山健治

平成五年十一月二十一日、本年か

ら新たに愛知県武道館に会場を移し、表記の大会が開催された。

中京大学は、過去一度の優勝(第五回大会)を含み、準優勝四回および三位五回と、優秀な成績を残してきている。今回、二度目の優勝をねらう、過去全日本女子学生選手権2連覇の川畠百重(3年生)を軸に、同学年で昨年度女子学生選手権三位の野平まさ美、高校総体個人準優勝の林美紀子(1年生)を加え、必勝の体制で大会に望んだ。

その他の選手は4年生に主将前川明子、副将瀬口智美の愛知県勢、2年生の谷本多代および1年生の羽深雅美といすれも技術的、精神的にも優れた者の選抜であった。主将の前川は、春にアキレス腱を断裂しており、練習量の不足や万全でない体調の為、選手としてはまったくと言つていいほど考えていたのである。しかし個人的に、リハビリに励み毎朝のランニングの姿を見る時、

選手として使うと決めたのであった。

試合はシード校の為2回戦からで付けてきたと言われる、竜谷大学との対戦であった。1回戦ということもあり、また優勝を意識して力みなれば良いがと思つていたが、先鋒羽深が二本勝を納め、一人落とした対戦であった。慶應大学女子は、これまでの大会さほど優秀な成績は残していないのであるが、今回は、関東大会に於いて、東海大学、筑波大学という有名実力校を相次いで倒し、堂々の準優勝をしているチームである。練習試合も一度お願いしたことがある。その時は本学に分があったが、本大会は気が抜けないとこだりである。試合前からやな雰囲気が漂っていた。しかし、次鋒林と2回戦から瀬口に代えて使った前川が勝を納め2対0で慶應大学を退けた。

3試合目は、関東大会で慶應大学に敗れている大東文化大学との試合であった。負ることはないと思つていたが、先鋒、次鋒引き分けの後、がかかるってきた。前川が負ければ、ふといやなことを思つたが、この思いを吹き消す見事な勝を納め大将川畠に繋いだ。川畠は安定した試合での対戦であった。この時点で入賞は確定した。後は頂上目指して一気に行くだけである。

準決勝、國士館大学、相手に取つて不足はない。昨年同じところで本

大会初めて使つた谷本が一本負けを喫している。先鋒羽深二本負けを許したが、中堅で使つた前川が一本勝し勝者数を対にした。副将の谷本が開始草々面を奪いこれは勝

て引け分けになつた。本数で一本りードされての大将戦、川畠は落ち着いて相手上段から小手を奪い勝利を導いた。この試合は、國士館大学のオーダー変更によりかえつて本校が

有利になつたのかもしれない。昨年

の雪辱を果たした。

いよいよ優勝戦である。予想はし

ていたが実にいやな相手である。鹿

屋体育大学とはこれまで全日本大会

を含め西日本大会でも幾度となく対

戦している。昨年のこの大会では、中盤で小手を決めた。良い出足である。ところが、しばらく攻防が続いたところで、合議が入つた。あまり意味のないような合議に思えた。しばらくの中断の後、試合再会、早々

前に出るところを面に乗られた。

完全な一本である。続いて羽深が動

搖したところを今度は出小手にとら

れた。合議の中断によつて流れが変

ったとしか言えない。続く次鋒林は、

西を相手に善戦するが、やはり全日

本保持者の西の前に二本負けを喫し

た。中堅野平が何とか引き分けにす

るが、苦しい展開である。副将前川

がまたもや見事な面を奪い、もう一

本と皆の願いが込められた。終了間

際に一本と思えるような面があつた

が、旗は一本も上がりらずに時間切れとなつた。大将戦、相手は、数多く

のタイトルをもつている谷山である。

川畠といえどもそう簡単には2本

勝ちを出来る相手ではない。しかし

臨んだ。

試合開始、羽深は相手を良く攻め

たところが、しばらく攻防が続

いたが、勝ちはその一勝のみである。

先鋒羽深、次鋒林、中堅野平、副

将前川そして大将川畠という布陣で

高・大の部 宮崎正充(中央高)

女子の部 石原たまみ(西尾東高)

熱田神宮奉納剣道演武

(共催)

期日 平成五年六月五日

会場 热田神宮境内

参加者 剣道14名

奉納 剣道形 水谷徳正 仲山居

合道 三名 枇道 六名

第4回愛知県なんりん ピック剣道大会

期日 平成五年六月二十日

会場 露橋スポーツセンター

参加者 85名

全国大会 加藤英男・松本敏男

出場者 深谷文二・宮林伯次

高橋光郎

補欠 伊集院俊基・中田勇

三位 田渕聖子(新日鉄)

三位 石原たまみ(教員)

剑道大会(中学生)

期日 平成五年八月八日

会場 稲永スポーツセンター

参加者 九十六名

男子 工藤憲一(旭南)

渡辺真史(知多)

下須崎健一(常滑)

三位 大野真樹(岩倉)

三位 小澤慎太郎(桜丘高)

三位 中崎彰(三河高)

三位 神野靖英(名南高)

三位 杉山裕之(日進西高)

二位 深尾仁(日進西高)

二位 川澄洋(星城高)

二位 松野竜也(向陽高)

三位 伊地知志郎

(トヨタ整備)

参加者 八百六十五名

成績 初段の部 三百八名

三位 神野靖英(名南高)

三位 杉山裕之(日進西高)

三位 中崎彰(三河高)

二位 深尾仁(日進西高)

二位 川澄洋(星城高)

二位 松野竜也(向陽高)

三位 伊地知志郎

(トヨタ整備)

第24回愛知県女子剣道 選手権大会

期日 平成五年七月二十五日

会場 同朋高校体育館

参加者 三百八十五名

女子 九十六名

男子 伊藤良子(加木屋)

二位 有富咲恵(東浦)

三位 小林良子(豊川西)

三位 富澤良恵(北里)

三位 下須崎健一(常滑)

三位 大野真樹(岩倉)

三位 小澤慎太郎(桜丘高)

三位 中崎彰(三河高)

三位 神野靖英(名南高)

三位 杉山裕之(日進西高)

第41回全日本剣道 選手権大会

期日 平成五年八月二十一日

会場 露橋スポーツセンター

参加者 三十九名

男子 倉成健治 日置介二

二位 吉田加奈江(中京女大)

三位 山本祐希(向陽高)

三位 川畠百重(中京大)

二位 吉田加奈江(中京女大)

三位 山本祐希(向陽高)

三位 川畠百重(中京大)

三位 吉田加奈江(中京女大)

三位 山本祐希(向陽高)

参加者 八百六十五名

成績 初段の部 三百八名

三位 神野靖英(名南高)

三位 杉山裕之(日進西高)

三位 中崎彰(三河高)

三位 神野靖英(名南高)

参加者 八百六十五名

成績 初段の部 三百八名

三位 神野靖英(名南高)

三位 杉山裕之(日進西高)

三位 中崎彰(三河高)

三位 神野靖英(名南高)

三位 杉山裕之(日進西高)

</div

第28回全日本居合道大会

期日	平成五年十月三十一日
会場	福岡県
参加県	45チーム
成績	団体 一位 福岡
個人	五段の部 杉山 二回戦
六段の部	吉田 三回戦
七段の部	松岡 二回戦
三位 岡山	
二位 神奈川	
三位 岡山	
二位 福岡	

おめでとうございます	称号及び段位合格者
剣道範士(平五年五月八日京都)	鈴木健一(75)
剣道教士(平五年五月八日京都)	加藤誠(43)
山崎 尚(35)	平井道典(38)
西田隆夫(50)	道山弘康(38)
剣道錬士(平五年五月八日京都)	浅岡幸昌(47)
間瀬田英雄(31)	林 真年(70)
野田孝志(35)	木村昌保(40)
島元 一道(42)	鈴木健夫(42)
斎藤 勉(43)	木村光宗(49)
佐野忠雄(62)	玉置 摂(61)
長谷川幸男(50)	竹島勇夫(62)
剣道八段(平五年五月八日京都)	新谷元夫(64)
林 邦夫(48)	舟津正人(30)
剣道七段(平五年五月八日京都)	鵜飼矢一(43)
大藪 正(48)	永井基幸(35)
榎原章允(52)	大内武夫(76)
鈴木邦雄(66)	前田利和(46)
居合道錬士(平五年五月四日京都)	加古秀男(45)
中地喜二郎(60)	豊里達也(46)
剣道六段(平五年五月十六日枇杷島)	田島喜好(48)
稻垣康秀(37)	片山 隆(56)
熊本千尋(44)	大森 定(39)
武田徹也(52)	加古秀男(45)
国本美弥子(52)	舟津正人(30)
竹川仁夫(68)	森 康次(37)
剣道錬士(平五年十一月二十七日東京)	河野鎌三(73)
榎本鐘司(40)	伊藤勲次(51)
榎原章允(52)	菅原 實(56)
阿部孝雄(46)	中本浩巳(33)
阿部孝雄(46)	森 康次(37)
阿部孝雄(46)	倉地 徹(37)
池田辰英(42)	舟津正人(30)
前田利和(46)	上松裕美(31)
成瀬和憲(47)	水野 登(84)
前田利和(46)	森 康次(36)
加藤誠(44)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	大内武夫(77)
山下恒典(49)	柴山宗平(59)
山下恒典(49)	河野鎌三(72)
山下恒典(49)	高橋光郎(66)
山下恒典(49)	前田利和(46)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	神園和徳(39)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典(49)	井関栄三郎(59)
山下恒典(49)	内藤 勉(61)
山下恒典(49)	上松浩美(31)
山下恒典(49)	永井基幸(36)
山下恒典(49)	岩本三千明(37)
山下恒典(49)	木越賢治(40)
山下恒典(49)	中村憲治(41)
山下恒典	

計報

横山 定雄(八十八才)

剣道範士 七段

愛知県剣道連盟相談役

名古屋市剣道連盟顧問

名古屋市北区大杉町市ノ二五ノ四
平成五年十月十一日 逝去

加藤万寿一(七十九才)

剣道範士 八段

愛知県剣道連盟相談役

名古屋市剣道連盟顧問

東別院青少年会館洗心道場

名警師範長

名古屋市東区出来町三ノ九ノ八
平成六年三月四日 逝去

日置富士雄(七十三才)

剣道範士 七段

大亞館 館長

一宮市大字柚木戻字打箱重七

平成六年七月二十三日 逝去

広報「観の日」第十八号
平成六年十月二十日

財団法人 愛知県剣道連盟

〒451 名古屋市中村区鳥居通り
二ノ四一ウチフジビル二階
電話(052)481-0093
FAX(052)481-0095